

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月2日
2次評価日（課長等）	2年3月25日

1 事業名	水道収益事業（3条）	コード	14202
-------	------------	-----	-------

2 担当部課	部等 建設水道部	課等 水道課	作成者 牛澤 孝太郎
--------	----------	--------	------------

3 事業概要	目的体系	基本目標	快適な生活を支え、住み続けたいまち		
		政 策	都市基盤の整備	施 策	上下水道の維持・整備
		予算科目	水道事業会計	業務委託	一部委託
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	水道法		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	市民の日常生活に直結する水道水を安全安心かつ安定供給するため、水道施設をはじめとした各種施設の計画的な整備、更新を図る。		
目的	対象者	岡谷市民	
	意 図	安全安心な水道水を安定供給する	

5 事業の実施内容	*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
	令和元年度の有収水量は 5,154,196 ^m となり、収益的収入 876,185,803円に対して、収益的支出は 686,076,135円となり、差引き190,109,668円の純利益となった（税抜き）。 収益のうち、給水収益は 795,153,648円で、前年度比 9,627,380円の減収となった。		
前年度の課題への対応	減少する水需要に応じた施設のダウンサイジングによる支出の減少や将来計画されている配水池築造の前倒し計画変更など早期の施設強靱化について検討を行った。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	市民が1年間に使用した水道水の総水量			単位	m ³
実績値	5,324,245	5,257,258	5,154,196		
*指標の説明	年間給水量				
② 成果指標（指標名）	供給単価			単位	円
目標値	145	153	153	152	
実績値	146	153	154		
達成度	100.7%	100.0%	100.7%		
*指標の説明	水道水1 ^m あたりの売上単価				
*目標値の設定方法の説明	当初予算における供給単価（水道料金/年間給水量）				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	571,019,296	592,602,304	589,603,467	670,125,000
経常経費	571,019,296	592,602,304	589,603,467	670,125,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	96,000,000	96,000,000	96,000,000	96,000,000
正規職員の人数(人)	12.00	12.00	12.00	12.00
③ 合計コスト(①+②)	667,019,296	688,602,304	685,603,467	766,125,000
前年度比		103.2%	99.6%	111.7%
財源	0	0	0	0
一般財源				
内訳	667,019,296	688,602,304	685,603,467	766,125,000
特定財源				
* 特定財源の説明 水道料金、メーター開閉栓手数料				
④ 活動一単位あたりコスト	111	117	119	
前年度比		105.2%	101.4%	
⑤ コストに関する補足説明	1 m ³ あたりの給水原価（(総費用－特別損失－長期前受金戻入)/年間給水量）			

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝成果指標（項目7/住民の満足度）は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	100.7%	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	1	
成果指標の目標値 達成度	100.7%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 給水人口の減少に伴い将来必要とされる水の量も減少していくことが予想されている。 管路の耐震化の推進と配水池などの施設の老朽化対策	
	改善方法	(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 適切な料金水準の検討により、投資効果の高い効率的な事業運営に努める。 減少する水需要に応じた施設のダウンサイジングによる支出の減少について検討を行う。さらに、人口減少や節水などによる年間総給水量の推移について調査・分析を行っていく。
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	--	---